



姫路城漆喰塗り体験会

# 会報

## 全国文化財壁技術保存会

### 第24号

令和六(二〇二四)年三月二〇日発行  
 編集 全国文化財壁技術保存会  
 発行 愛知県江南市力長町 大当寺二二八  
 事務局 愛知県江南市力長町 大当寺二二八  
 TEL (〇五八七)五九一八〇〇〇

会長 安達保信



当会関係者各位の皆様にはご健勝のことお喜び申し上げます。又、平素は多大なるご支援、ご指導を賜り誠にありがとうございます。

世相はコロナ禍の影響も少なくなつて、以前に戻りつつある中で当会の行事も活発になりつつあります。先ず5月14日に総会を京都にて行いました。文化

庁様からもご臨席賜り、祝辞を頂戴いたしました。そして6月26日から28日の3日間では、中級試験(実技)を開催し、8月28日から9月1日の5日間、11月27日から12月1日の5日間で普通講座の研修を行いました。

9月17日には姫路市の主催による姫路城漆喰塗り体験会を行い、会員さんの指導のもと盛況裡に終了いたしました。

11月18日、19日の2日間は文化庁主催で「日本の技フェア」の開催に出展参加いたしました。パネル展示と壁塗り実演を行い、大勢の見学者を数え盛会でした。その節は他保存会関係者の皆様、当会員のお手伝い願った方々には大変お世話になり、ありがとうございます。

他、文化財建造物保存修理に携わる団体として「一般社団法人文化財修理技術保存連盟」、通称「文・技・連」があります。

構成は7団体で、当会も参加させていただいております。団結してこの団体の維持、また技術の伝承者育成を図るべく結成されています。我が国の国宝・重要文化財は国の補助を頂き運営され、維持されています。保存修理に携わる各職人さんと次世代を担う人材の育成は必須であります。そして将来的に持続可能な体制を整えるのが我々の使命であり、必要な予算の要望を国に認められた団体として事を進めるべく、令和6年度より「一般社団法人」へ移行を進めてまいります。文化庁様も京都移転が成り、ご指導賜っており大変有り難き次第です。

当会の総会も令和6年5月を予定しております。会員の皆様方も多数出席をお願いいたします。今年度も入会申込が数名あり、力強く思います。また、会員の資格審査も厳格になり、地

位も向上します。どうぞ、この業界も将来の展望が明るい未来となりますよう皆様の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 副会長 中嶋正雄



日頃より関係者の皆様及び当会会員の皆様には多大な御支援助と御協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

昨年度は左官（日本壁）伝承者養成技術研修会 普通講座および中級試験、姫路城漆喰塗り体験会、日本の技フェアなど、予定されていた行事を全て無事

に取り行うことができました。少しずつではございますが、以前のような活動ができるようになりまして、大変うれしく思います。

研修会にて御指導くださいました講師の方をはじめ、各行事にお世話になりました。改めまして深く感謝申し上げます。

さて、当会は新たな制度と共に生まれ変わろうとしております。この伝統的左官技術をより永く継承していくためには、我々も時代の流れに沿って変化し続けなければなりません。特に昨今の深刻な問題となっているのが、後継者不足です。まずはこの左官業界の魅力を宣伝し、興味を持ってもらうことから日々感じております。当会だけでなく文化財に携わるすべての業種で一致団結し、技術の保存

について改めて考えなければなりません。そのためにも意見交換の場を大切にし、各方面の方々と連携を取れるよう精進してまいります。

まだ試行錯誤の状態ではございますが、この左官業界が明るい未来となるため、当会はより一層力を入れて活動し、前に進んでいきます。

今後とも皆様の変わらぬ御援助・御助力の程、宜しく御願ひ申し上げます。

### 第31期(令和5年度)総会

令和5年5月14日、京都市で第31期定期総会を開催しました。来賓等は、文化庁文化資源活用課 修理企画部門 文化財調査官の江島祐輔様、京都府教育庁指導部 文化財保護課 建造物担当 参事の 小宮睦様にご出席いただきました。

総会では、令和4年度事業報告及び収支報告、令和5年度事業計画案及び収支予算案の審議を行い、原案のとおり承認されました。引き続き、選定保存技術左官（日本壁）伝承者養成技術研修会受講修了者への修了証の交付を行いました。



修了証書授与



安達会長あいさつ

## 左官（日本壁） 中級研修会（実技試験）

今年「左官（日本壁）中級研修会（実技試験）」を数年ぶりに開催する事が出来ました。

兵庫県姫路市の(株)山脇組にて6月26日から6月28日にかけての3日間、10名の研修生たちは六葉の漆喰塗り及び額縁作成に取り組みました。



中級研修

## 研修生の感想

### ■山脇一夫（株）山脇組

この度の中級研修では実技の課題として、漆喰蛇腹引きと六葉の漆喰塗りを行いました。六葉の漆喰塗りは現場での経験もあり、使う道具や施工方法のイメージはありました。しかし、今回の中級研修では見本があったので正確に採寸したり、現場とは違ったアプローチでの方法を体験し、忠実に再現する難しさを学びました。他の研修生方からは、多種多様なやり方で六葉に漆喰を塗っているのを見させて頂き、良い刺激を受けました。

もう一つの課題、漆喰蛇腹引きは仕事での経験はなく、若いころに西洋建築の修復現場で、ベテランの職人さんが蛇腹引きをしているのを目にしたことが

ある程度でした。そのため、自分なりに考えて取り組んでみましたが、思っている以上に形が綺麗にならなかつたり、うまく

できないところが多々あり、かなり苦しむ結果となりました。ですが、施工方法やコツなどを細かく指導して頂き、かなりスキルアップが出来たと感じています。今回の研修で学んだことを今後の仕事でも、広く活用できるよう努力していきます。

充実した三日間、指導して頂きありがとうございました。

### ■中嶋英貴（中島左官株）

今回の中級研修を受けて、まずは周りに左右されてしまったと感じました。三日かけて試験を行うにあたり、作業工程のイメージをしてきましたが、時間が足りませんでした。やはり、型取りや採寸などにもう少し時間をかけるべきだと感じました。時間内で完成させようと焦って

しまい、直線部分で曲がっている箇所が出来てしまいました。今後は慣れている作業、好きな作業に関わらず、焦らずに作業をしていきたいです。

材料の調合や乾燥、塗りつけに関しては、時期は良かったのですが、上塗りをもう少し厚みを付けて成型した方が良かったと思います。

他の研修生はやり方が個々様々で、自分自身には丁寧さが必要だと再認識させられました。

今回、研修生が一同に集まり実技試験を受けて勝ち負けを意識するよりも、技術を向上させたい意欲と再認識させられることが多くあり、今後高めるべき点がはっきりとして課題が残る結果でした。

役員の皆様、準備と場所を提供してくださった山脇組様、事務局の皆様ありがとうございました。

### ■津田弘道(有津田左官工業所)

全国文化財壁技術保存会の会員である誇り、研修会で様々な地方の伝統技術を学び、地域の材料に工夫を取り入れ、進化しつつも伝統工法を守る事が出来る壁保存会で、日々勉強させていただきます。

まず、入手困難な材料が増しており、新築一般住宅では土・本漆喰・本聚楽などの材料需要が無い材料を扱う事業所様が廃業されている状況と聞いております。全国の左官屋さんが1年で何回、土中塗りを施工しているでしょうか、少ないと思われるでしょう。土は地場が多いでしょうが、中塗り用の揉み苳、荒壁用の藁苳も左官用としては少ないです。お米はたくさん収穫できますが、台風で倒れにくい品種改良のため稲が硬く、左官用としては扱いにくくなりつつあります。漆喰の材料に使う糊

で国産の銀杏草・角又を入手するのも難しくなっております。

しかし、壁保存会には伝統材料に力を注がれている石灰会社さん、漆喰等に使用する晒苳などを作っておられる材料屋さんなどが会員におられます。強い味方です。伝統材料も守れるように意見交換を行い継承して頂きたいと思えます。そして研修会で出会った仲間と共に切磋琢磨し、技術を高めることができる壁保存会の会員であることに感謝いたします。

### ■柴田正樹(株山脇組)

研修会では、まず簡単な説明の後、各自作業に取り掛かっていきました。事前に課題を知らされておき、各作業に必要な鍬や道具を準備する中で、どのように作業を進めるべきかイメージして、組み立てる段階から試験が始まっているのだと実感しました。

蛇腹引きの作業は型折の段階でなかなか思うように折れず、時には反対に折ってしまうなど苦戦しました。塗りの作業では、止めの部分の切りつけ、直角を合わせるところが難しかったです。

六葉の漆喰塗りでは、下地から仕上げまでの形、大きさ、高さ、寸法、対角線を揃えるのが考えどころでした。これらを揃えるには「型」が必要だと思い、準備していきしましたが、講師の方の助言で違う型を作り直し、作業に取り掛かりました。この助言のおかげで、作業もしやすくなり、形も揃えやすくなり、さすがだと思いました。

この研修会を通して、同じ課題、同じ時間の同じ条件でも研修生によって作業の進め方も意気込みも違うのを実感し、今後仕事をする上で参考になることを学ぶ事が出来ました。

この中級研修の経験は自分にとって、とても為になり、貴重な時間になりました。お世話になった役員の方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。

### ■大森祐郎 (有)田代千治店

今回の一つ目の課題は六葉の漆喰塗りでした。懸魚にとりつけられる六葉は木製や漆喰塗りが主で、長押や扉などに釘隠しとして取り付けられる六葉は金具や木製が主となります。この六葉は六葉座、菊座、饅頭、樽栓から成り、心臓形の猪の目が6つ穴彫りされているのも特徴の一つだと思います。以前、師匠から「六葉の6つの頂点と樽栓の中心を線で結ぶと、『\*』となるやろ。これ『水』と良く似ているやろ。火災から守るおまじないや。五葉、四葉というものもあるんや。」と教わりましたが、20年たった今でも五葉には出会

えていないと思います。

二つ目の課題は額縁で、蛇腹を型引きして底部を黒漆喰で仕上げるものでした。蛇腹は明治期の洋館に多用されていますが、今後文化財の仕事で増えていくと思われるので楽しみであり、また必修となるものだと思います。この機会に経験でき、大変有り難いです。黒漆喰も各地で様々な施工方法があり、全国から集まった研修生や役員の方々と情報交換できたことは、これからの活力になると思います。

さて、課題の制作過程ですが期間が三日間あるとのこと、付け代の多い六葉から取り掛かりました。モルタル下地に喰い付きの生漆喰をこすり、荒付け用の砂漆喰を作り、その後水引きを見計らって寸法を確認しながら、荒付けを行いました。

次に蛇腹引きの引き型作りを行いました。木片に型折でブリ

キを折って取り付けましたが、歪みの無いように折り、取り付けることが肝となります。引き型が出来上がると、下地に生漆喰をこすり、完成をイメージしながら荒付け、中塗りと進めます。ここで肝心なことは止めの部分を直線のスジが45度で通るように塗りつけ押さえることで見栄えが良くなると思いました。中塗りが終わり、上塗りも引き終える頃、役員の方に漆喰ノロを使い、ノロがけをして指などで仕上げる事を勧められ、その通り行くと引き型のスジ傷や細かい穴が消えてうまく収まりました。

二日目は前日に荒付けをしておいた六葉中塗りですが、これが最も難しいものでした。会場に見本が一つあったので、寸法を測りながら当て型を作ります。

型の素材は、プラスチックやテイル、キッチンペーパーやテ

ープを使用しましたが、六葉は複雑な形状をしているので、苦勞した割には良い当て型が出来ませんでした。研修生の中に厚紙を使用している方がおり、なるほど驚かされました。ほとんどフリーハンドで形成されている研修生もおり、手先の器用さに感心させられました。

最終日は上塗りの続きからですが、仕上げていく順番が人によって、いろいろで良い参考になりました。六葉上塗り終了後、額縁底部の黒漆喰仕上げを行いました。ここでの肝は白と黒の取り合い部です。テープを貼ったり、プラスチックなどで仕切ったりしましたが、黒が滲んで白を汚してしまいました。白漆喰を塗り、黒ノロをかけて仕上げたことにより、綺麗に仕上げている研修生もいました。

後日現場で、それを参考に仕上げたところ、スカツと白黒つ

ける事が出来ました。今回の研修中、昼食時や夕食時、研修終了後に他の研修生や役員の方々から教わった工法や材料、鏝の形や心得など、すぐには活かせなくとも、いずれ難所を乗り切ろうとする時に必ず助けてくれるものになるはずですよ。

今回、関係者の皆様、指導いただいた役員の皆様には感謝しております。また次回お会いできること楽しみにしております。

#### ■原田正志(株原田左官工業所)

この度は、研修会に参加させて頂きありがとうございます。実技課題はそんなに大きくないサイズでありながら、蛇腹引き、六葉の仕上げ、黒漆喰の押さえと内容は盛り沢山で、材料の水引具合、乾燥具合を考慮しつつ行程を組み立てないと、上手くないと感じました。

蛇腹の型引きも型を作るところから始めました。引き型の

木片とブリキ板があるので、寸法を測りながら、丁寧に折っていききました。そして、木枠を定規代わりとして引いていきます。小さく引きづらい部分もありましたが、ある程度勢いも大事でした。キメグリ等での留めの処理の方が時間がかかったように思います。

六葉も蛇腹の水引具合を見つつ、同時進行で作業を進めていきました。図面や実際の見本を見ながら必要そうな定規類も作成していきます。その時には自分がどのような手順で六葉を仕上げていくのか行程を考えていなければ定規も作れません。考えながら手も動かすことが重要だと感じました。付け代を見つつ中塗りをして、水引きを具合を見て上塗りも行う。角のラインが綺麗に出るように気を付けながら慎重に作業を進めていくのだが、側面の部分が特に鈍角

が多く難しいところでした。

今回もお世話していただきました役員の方々、事務局のスタッフの皆様感謝申し上げます。とても内容の詰まった研修でした。ありがとうございます。

#### ■丸橋優樹(株しっくい浅原)

今回、中級研修会(実技)の蛇腹・六葉の制作を終えて、いろいろなことを経験させていただきました。あまり上手いかなかったことも多かったです。制作を通して学んだこと、役員の方々やほかの研修生の皆さんから学んだことを普段の仕事にも活かしていきたいと思えます。

このような場を設けて下さった壁保存会の役員の方々、今回一緒に研修を受けた研修生の皆さん有難うございました。

#### ■加藤祐一(加藤左官店)

中級試験の課題は六葉の漆喰塗り、漆喰蛇腹、黒漆喰と普段使い慣れている材料で安心しま

した。完成品の六葉見本があり、この六葉の寸法の追い出しをしながら下塗り、つけ送り、中塗り、上塗りに進めなければならず、パーツ一つ一つを手順良くしなければ正確な角度、寸法が出ない造りになっており困難でした。特に猪の目と菊座の十六弁は寸法だけでは言い表すことのできない形、収まりを求められていました。

六葉の存在、形状は知っていましたが、課題制作を通じて普段からよく目しているもの、いかに見ているのか、と要求されているのだと思えました。

今回参加者は10名ということ、作業手順などいろいろ見せて頂き勉強になりました。課題制作で発見したこと、反省点を持ち帰り、普段の仕事がより良いものになる様努めてまいります。と思います。

## ■森田真伍(中島左官株)

この度、研修会に参加させていただき感謝いたします。試験課題は「額縁の作成」「六葉漆喰塗り」でした。まず、六葉の砂漆喰塗りでは、モルタルで型抜きした六葉に接着剤を散布し、生漆喰と砂漆喰を混ぜたもので六葉をこすりました。接着剤の使用により、漆喰が六葉にしっかりと付着し、剥がれないために、しっかりとこすりまします。均一な厚みと滑らかな表面を作るために重要なので、丁寧に行いました。乾きを待っている間に、次の工程に進みました。

額縁の作成です。引き型用の木片は、用意してあったので、ブリキの作成に入りました。これが、自分の中でこずった作業でした。寸法を確認して、ブリキと木片を組み合わせて、小さい釘で止める。次に、片折りでブリキを折り、木片と組み合

わせて引き型を作成しました。

そして、木枠に砂漆喰をこすっていきます。乾きを見計らって、また材料を付けその引き型を当てて引いていきます。この時に、寸法と片折の場所が違っていたために、想像していた中塗りとは異なる出来であったため、一かやり直すことを決断しました。一回塗ったところを取り、もう一度寸法から図り直し、片折を丁寧に慎重にやりました。

ここで感じたことは、この引き型は、正確な引き型を作らないと。後続の工程での仕上がりの精度がかなり違ってくることです。縁の蛇腹部分のデザインがこれで決まってしまうということ。時間もなかったの、下こすりだけして一日目は終わりました。

二日目は、早速引き型を使って中塗りです。作成した引き型を使用して、砂漆喰で額縁の中

塗りを行います。中塗りは、額縁の形状を確定するための重要な工程なので、一定の厚みで漆喰を塗ります。引き型をしっかりと作成したおかげで、スムーズに中塗りをすることが出来ました。蛇腹の中塗りを乾かしている間、六葉の続きをやります。前日にこすりをやっていたので、塗り代を確認し、砂漆喰で付送りを行いました。本物と確認し、フリーハンドでは出来ないの、自分なりに紙で型を作ったり、ブリキで切ったりして、試行錯誤で行いました。中塗りも終わり、上塗りの漆喰に差し掛かった時、他の研修生の方々を見てもみました。

研修中に作った型ももちろんありましたが、いろんな種類の型がパーツごとに用意しており、各自で細かい罫がたくさん用意してありました。いかにして、準備が大事なのか思い知らされ

ました。そんなことを感じながら、塗り代が不足している所、砂漆喰を使用して付送りをを行い、乾きかけている細かいところは、上塗りを塗っていきました。額縁全体の仕上がりに影響を与えるため注意深く行いました。残りの時間で、額縁の蛇腹の上塗りを塗っていきました。

そして三日目、最終日。六葉の各部分の仕上がりの寸法を確認しながら、漆喰で仕上げます。六葉の模様や形状を美しく強調するように仕上げるのが目標です。寸法やデザインに誤りがないように細心の注意を払い、漆喰を丁寧に塗っていきます。

しかし、ここで問題だったのが、上部の高い所から漆喰の仕上げを行ったということ。中塗りの時もそうだったので、中塗りの時もそうだったので、下から、低い所から寸法をしっかりと決めて、型を当てる。やっている時は、分からなかつ

たがすごく勉強になりました。六葉は、仕上がりましたが、やはり寸法がずれていました。六葉の難しさを痛感しました。そして、黒漆喰の部分の上塗りには、時間により持ち帰ってやることになりました。

蛇腹部分の上塗りがあるので、気を付けながら、少し黒の入った砂漆喰をこすり、時間を見計らって、底面に黒漆喰を使って上塗りを行いました。渴きを確認しながら丁寧に仕上げることを心掛けました。

課題制作の総括では、額縁の作成において、漆喰の特性を理解し、正確な下地処理や均一な塗り作業が重要であることを学びました。また、引き型を作成する段階での正確さが、最終的な仕上がりに大きく影響を及ぼすことを認識しました。渴き具合の確認や丁寧な仕上げ作業によって、美しい額縁を完成させ

ることが出来ると感じました。

六葉漆喰塗りは、伝統的な左官技術の中でも特に繊細です。塗りの厚みや一定さ、六葉のデザインを正確に表現することが重要であり、これには熟練した技術と集中力が必要だと感じた。全体を通して、作業に入るまでの準備。六葉のような細かい作業の場合は、正確な型が大事であると。失敗を通して学ぶことが出来ました。

研修生とは、知っている人が多かったので気持ちよく研修が出来ました。休憩の時、情報交換が重要であることも学びました。皆が互いに助け合い、アドバイスを交換し合うことで、より良い成果を上げることができました。技術の向上だけでなく、チームワークの大切さも学びました。

他の地域で活躍している左官職人たちとの会話を通じて、地

域ごとに異なる伝統技術や素材の使い方について知ることができました。新たな視点を得ることで、自分の技術に幅が広がり、より豊かな経験を積むことができました。

今回の研修を通じて、自らの技術向上と文化財保存への貢献を目指し、精進します。

#### ■松本祐二（株松本工業）

令和元年の筆記試験から四年が経ち、実技の試験は不安でもあり楽しみでもありましたが、課題の指示図面を見て最初に思ったことは、非常に難しい内容であることでした。蛇腹型折り、引き、黒漆喰、六葉の砂漆喰中塗り、漆喰仕上げと、日ごろの仕事では携わることのないものばかりで、施工手順が全く分からず焦りました。精度の高い見本課題を、見様見真似で簡単にできるものではありませんが、3日間で完成できるように、自

分なりに解釈し、中塗りから仕上げと、どの工程も必死でした。難しさを実感しましたが、細かな鍔使いや複雑な模様には楽しさも感じられ、他の研修生から、難しいがとても楽しいと聞かれたのが印象的でした。難しい仕事でも諦めずに、日々挑戦し楽しむということが、左官職人としての本来の姿ではないかと思いました。

この課題の中には、左官の心得と技術全て（事前準備、観察力、寸法精度、施工精度、スピード、きれいに作業すること等々）が凝縮されていると感じました。技術と共に、道具の重要性和、小さな鍔、役物用の鍔、型折り道具、今では手に入りにくいであろうこれらの道具も、今後揃えることができればと強く思いました。また、自分以外の9名の研修生の手仕事を見ることも、大変勉強になりました。常日頃

から、冷静に品格をもって仕事をされている方々ばかりで、自分が恥ずかしくなり、少しでも吸収できることはないかと、手順や技術を見ることがで刺激を受けました。また、技法・道具のことも聞かせてもらい、そして交流もできてとても良かったです。

講師の先生方の助言や教えは大変ありがたく課題作成に大いに役に立ちました。そして、今回の経験により、日本の伝統文化や建築、左官も含めたこれらにかかわる伝統技術や各職人の技や道具を守り伝承していかなくてはと強く感じました。伝承者養成技術研修会中級とは、これらを伝承していくための、豊富な経験と知識と高い技術を持つて、重要文化財をこれからも守っていくという意識が問われることだと実感しました。先人たちが築き上げた左官の技術や

技法を、今の世代が受け継ぎ、次の世代へと教え、継続していくことは簡単なことではありませんが、少しでもお役に立ちたいと思いました。日本には、多くの国宝・重要文化財建造物が残されています、左官として少しでも携わることにより、自身もさらに技術向上に努めるよう努力していきたいと思えます。今回、全国文化財壁技術保存会の中級研修会へ参加させていただけたことに大変感謝しております、ありがとうございます。



### 左官（日本壁）伝承者養成 技術研修会（普通講座）

文化財壁技術の継承を図るた

め「左官（日本壁）伝承者養成技術研修会（普通講座）」を開講しました。

前期・後期計10日間、2回に分けての研修となります。

前期は8月28日から9月1日の期間で研修を行いました。実技研修では㈱山脇組（兵庫県姫路市）にて㈱しつくい浅原 浅原雄三氏による赤・黒漆喰磨きの実技、(有)左官松本組 松本勉氏による土佐漆喰の実技を行いました。講義研修では姫路市立城郭研究センターにて田中石灰工業(株) 伊吹知之氏と市川竜也氏による石灰に関する講義を聴講しました。文化財見学では姫路市教育委員会 福田剛史氏と田路拓也氏に書写山圓教寺を案内していただきました。

後期は11月27日から12月1日の期間で研修を行いました。実技研修では中島左官(株)（愛知県江南市）で㈱しつくい浅原 浅

原雄三氏による大津壁の実技、(株)富士工舎 荒木富士男氏による洗い出しの実技を行いました。講義研修では、同所講義室にて(株)富士工舎 荒木富士男氏による洗い出しに関する講義、博物館明治村 建築担当部長 石川新太郎氏による文化財修復に関する講義を聴講しました。文化財見学では愛知県犬山市の国宝犬山城と有楽苑如庵、博物館明治村へ見学に訪れました。

## 研修生の感想

### ■塩谷洋晴(大和左官)

この度は基礎講座に続き普通講座へ参加させて頂き、無事に終えることができ、ありがとうございました。今回の研修では実技が多く、色漆喰磨き、土佐漆喰、大津壁、洗い出しと材料の拵えから仕上げまで行いました。材料の配合など全てがとて

も勉強になり今後に活かし伝えていきたいと思えます。今回も役員、講師、事務局の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

### ■長坂晃輔(有安達左官店)

実技では、前期、後期共に普段あまり施工しない貴重な仕上げ方を、教えて頂きました。中でも洗い出し工法では、自身の技術の改善点も見つかり、為になりました。座学では、興味深い様々なお話が聞けました。見学では、様々な貴重な文化財を生で見る事が出来とても勉強になりました。この研修で見た物、聞いた事、教えて頂いた事を、今後の仕事に活かして精進したく思います。講師陣の皆様、関係者の皆様有難う御座いました。

### ■横井川武志(田中昭義左官(株))

愛知県の中島左官さんの倉庫

で大津壁の講習と洗い出し工法の研修を受講いたしました。どちらも材料練りから塗り付け仕上げまで細かい指導があり、大変有意義な時間となりました。ありがとうございました。メモに取った事を見返し、現場に活かしていきたいと思えます。

### ■荒木英丸(株)原田左官工業所

この度の研修会では「赤、黒漆喰磨き仕上げ」「土佐漆喰磨き仕上げ」「大津壁の仕上げ」「洗い出し仕上げ」などがありました。普段の自分の作業で無駄な動き、悪い所、足りない所を指摘して頂いたり、感じ取る研修会になりました。

これから少しでもいい左官に成長出来るように今回の研修会を生かして行こうと思います。

### ■原翔一(原左官工藝)

今回の研修では、仕事はでし

たことのなかった大津仕上げと、何回か施工したことのある洗い出しが荒木先生に教えていただく洗い出しとどう違うのかを学ぶことが楽しかったです。

まず、大津仕上げを仕上げてみて思ったことは、鏝の方向を揃えて色を合わせることが重要だなと感じました。

今回の研修では中塗りの土があまり乾かず、最後まで押えきれなかったのが残念だったので、機会があれば今度はしっかりと押えた大津仕上げを学びたいと思いました。

洗い出し仕上げは、行程自体は今ままでしてきた物とそんなに変わらなかったですが、鏝使用や、なるべく素早く丁寧な仕事をする心掛けを荒木先生に教えていただきました。特に噴霧器を使って洗うやり方を実演して頂いたときに、荒木先生が教えてたどり着いた噴霧器の使い方



普通講座（前期）

に感心し、今度使う機会がある時には、ぜひ実践してみようと思いました。

今回の研修を終えて思ったことは、やはり荒木先生の仕事にたいする姿勢や思いを見て学んだことが一番自分にとって勉強になったと感じた研修でした。



漆喰赤磨き 実技



材料拵え 実技



石灰について 講義



黒漆喰磨き 実技



書寫山圓教寺 見学



土佐漆喰磨き 実技



大津壁 実技



材料拵え 実技



洗い出し 実演



洗い出し 講義



文化財修復に関する 講義



洗い出し 実技



明治村 見学



犬山城・有楽苑 見学

## 姫路城漆喰塗り体験会

令和5年9月17日、壁保存会と姫路市の共催事業、令和5年度姫路城漆喰塗り体験会を開催しました。

姫路城三の丸広場において、姫路城修復工事で実際に使用されている漆喰を使用し、平壁漆喰塗りと屋根目地漆喰塗りの体験を行いました。また左官仕事や漆喰の説明と共に、道具や材料見本の展示も行いました。

今年には姫路城の世界遺産登録30周年を記念した特別版お城E X P O と同時期開催で、来場者も過去最多を更新しました。

体験会の指導員スタッフとして参加した当会会員も総勢20名以上が集まり、大きな賑わいとなりました。



姫路城漆喰塗り体験会



平壁漆喰塗り体験



平壁漆喰塗り体験



平壁漆喰塗り体験



屋根目地漆喰塗り体験



材料・道具説明の様子

文化庁 日本の技フェア

令和5年11月18日から19日までの2日間、「日本の技フェア」が開催されました。今年は文化庁が京都へ移転されたことを祝して、京都勧業館みやこめっせ（京都府京都市）で開催されました。

当会も出展参加し、活動様子を写した写真パネルや材料、道具の展示、当会会員による小舞掻き・中塗り・大津壁色土仕上げなどの実演を行いました。来場者も多く、実演の際には多くの人が足を止めて、見学されました。

また、文技連7団体による職人の公開インタビューでは田中昭義左官(株) 横井川武志氏が登壇されました。コロナ禍の規制が緩和され、以前のような賑わいが戻りつつあります。



日本の技フェア展示



日本の技フェア展示



日本の技フェア実演



日本の技フェア実演



公開インタビュー



日本の技フェア実演



日本の技フェア実演



日本の技フェア実演



日本の技フェア実演



日本の技フェア実演

**新入会 会員紹介**

■ **大橋和広 (大橋左官)**



この度、全国文化財壁技術保存会に入会させて頂き、誠にありがとうございます。大橋左官の大橋和広と申します。

全国の壁技術保存会の皆様と交流させて頂いたことが楽しみであります。文化財に携わる者として、先人の方々が守ってきた伝統・技術に恥じないよう精進していく所存です。何卒ご指導よろしくお願い申し上げます。

■ **小倉道生 (株)小倉左官店**



この度、全国文化財壁技術保存会に入会させて頂きました。岐阜県の株式会社小倉左官店の小倉道生と申します。文化財壁工事に携わるにあたり、伝承技術の重要性を痛感しております。皆様の培われた技術と、知識をお借りしながら、自身の向上に繋がれたらと思っております。また、少しでも、次世代に技術の継承が出来ますよう努めて参りたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

■ **白石博一 (壁左匠しらいし) (株)**



このたびは全国壁技術保存会の一員として、この場で皆様にご挨拶できることを大変光栄に

存じます。伝統的な左官技術を継承し、日々研鑽されている全国の会員の皆様との交流は、私にとって、学ぶところが大きいと感じております。私も、日本の左官職人の心を大切に守り、この先も誇れる技術を目指して精進して参りたいと思っております。仮借ないご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

■光増健二（光増左官）



この度、全国文化財壁技術保存会に入会させていただきました。光増左官、光増健二と申します。

材料の調合や手順、道具、歴史的背景、環境による作業性など経験が物をいう左官において、

伝統的な技術、知識を学び、全国の左官職人と共有し未来に残すことができれば良いと思っております。若輩者ではございますが、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

■宮奥淳司（宮奥左官工業）



全国文化財壁技術保存会に入会させて頂く運びとなりました。宮奥左官工業 宮奥淳司と申します。

国の始まりの地「奈良」で地域に残る古式の仕事を重んじながら職人生活を続けさせて頂いております。懐の広く深い左官の世界。入会を機に各地に伝わる伝統技術を学ばせて頂ければと期待に胸を膨らませております。

す。どうぞよろしく申し上げます。

■田中克也（田中石灰工業株）



この度、全国文化財壁技術保存会に賛助会員として入会させて頂きました田中石灰工業株式会社の田中克也と申します。

弊社は土佐漆喰を主に種々漆喰製品および石灰製品のメーカーとして日頃より会員の皆様には大変お世話になっております。私は本会が歴史ある素晴らしい左官技術の保存、継承に取り組まれることで、日本の文化財保存事業の推進に貢献されていることに強く感銘を受けております。賛助会員として入会させて頂いたからには本会の発展に少し

でも貢献できるよう微力ながら尽力したいと考えております。何卒、宜しくお願い申し上げます。

一般社団法人 全国文化財壁技術保存会の設立が決定

令和6年4月より、一般社団法人全国文化財壁技術保存会の設立が決定いたしました。これに伴い、令和6年5月19日（日）に開催予定の当会通常総会と同日に、（一社）全国文化財壁技術保存会の臨時総会を開催いたします。

会員募集は4月より順次受付開始します。個人会員の枠も設ける予定です。皆様のご入会を心よりお待ちしております。一般社団法人全国文化財壁技術保存会をどうぞよろしくお願いたします。

## 日本特別史跡 多賀城南門周辺地形修復・

### 築地塀復元工事 中島左官(株)

多賀城は724年に大野東人（おのおのあずまひと）によって創建され、現在ではその跡地は平城京跡（奈良県）、大宰府跡（福岡県）と共に日本三大史跡に数えられています。多賀城跡の発掘調査の結果、当時は正殿を中心に四方を約90mに築地塀や柵木列を立てた政庁域が確認されています。

工事の計画は正殿を囲う塀にある南門の復元工事です。令和2年より南門の復元を行い、令和4年度末に完成後引き続き築地塀の復元に移っていく計画です。今回は築地塀の復元工事に参加させていただきました。

築地塀は南門を中心として東西それぞれに約12m復元する計画です。版築は柱間ごとを1区画として東西4区画ずつ行いました。1区画は1層75mmとし、約50層積み重ねる計画です。

本施工の前に1m四方の型枠にて試験施工を行いました。試験施工では材料の配合を決定し、脱型完成時の仕上り具合を確認してから強度試験を行いました。

今回の版築工事で使用した土は宮城県利府町から産出された真砂土を使用しました。真砂土はよく乾燥させ10mm目の篩に通してから使用しました。材料は先の試験施工より決定された配合を徹底し、左官用のミキサで攪拌する際のにがり水は噴霧器を使用して加水し、材料にダマができないように注意を払い行っていました。攪拌した材料は型枠の中に敷き均し、1層

が75mmに仕上がるように調整していきました。その後の搗き締め作業においては創建当時の作業方法を遵守して全て手作業で行い、主にタコや搗き棒を使用して仕上げていきました。搗き締めの状況を確認しつつ、搗き固めた表面の硬度を計測し一定の数値以上の硬度が確認できるまで搗き締めを行い、次の層に積み重ねていきました。

今回は1300年前の建物の復元ということで、普段めつたに携わることのできない版築作業を経験することができ大変良い経験となりました。今後、同様の現場に携わる機会があった時に今回の経験を踏まえ、技術の継承に従事していけたらと思います。頑張っていきたいと思えます。



## 若手職人

後藤 琉聖

吉村興業(株)

私は昔からインテリアや内装に興味があり、インテリアデザイナーの専門学校にも通っていました。ある日、授業の一環で左官の仕上げを体験したことがありました。同じ素材を使つての作業だったので、力加減や技法によって壁の表情が変わる事に面白さを感じ、と同時に衝撃を受けました。その時受けた印象がとても新鮮で、「左官職人になりたい！」と左官の道へ進むことを決めました。

左官の世界を知るには、左官についての色々な仕事(作業)を経験したいと考え、仕事内容が多岐にわたる吉村興業が良いと考え、そこで働かせてもらえないかと門をたたきました。



入社した当初は、材料を少しこねたり運んだりするだけでもヘトヘトになってしまいました。今は、ようやく筋力もついてきて、少しずつですが形になってきているように思えます。

先輩方の仕事をそばで見ていると、いとも簡単にこなしているのですが、いざ自分でやってみると、思うようにいかず、左官の仕事の難しさ、先輩方の技術の凄さを実感しています。

今はまだ先輩方のアドバイスを受け、日々勉強の毎日です。



先輩方に比べ、自分は無駄な動きが多いなど実感していて、その無駄な部分を削ぎ落とせるように上達していきたいと思っています。

将来は「早く・綺麗に壁を仕上げられる職人になるぞ！」と焦りを感じる反面、今はとにかく基礎をしっかりと身につけていけるように努力しなくてはと頑張っています。行く行くは複雑な形の造形にも携われるような左官職人になりたいと思っています。

## 編集だより

昨年は研修会やイベントを通し、会員の皆様には大変お力添えを頂きました。壁保存会の一般社団法人化も決定し、今年も少しずつ進歩していきます。

以前より製作していただいた壁保存会DVDが完成いたしました。会員の皆様には1枚ずつ配布させていただきました。ご感想やご意見等は事務局まで、お寄せいただけますよう、お願いいたします。

原稿をお寄せいただきました皆様方に御礼申し上げます。来年度もどうぞよろしくお申し込み申し上げます。

(編集・事務局)

保存会ホームページアドレス  
[Kabehozonkai@sakurane.jp](mailto:kabehozonkai@sakurane.jp)  
 事務局 Eメール  
[kabehozonkai@outlook.jp](mailto:kabehozonkai@outlook.jp)

**選定保存技術左官（日本壁） 技能者認定者名簿**

番号	氏 名	所属事業所(交付時)	認定証交付日
1	奥 井 五十吉	(株) 奥 井 建 設	平成17年4月1日
2	田 代 益 市	(有) 田 代 千 治 店	//
3	佐 藤 治 男	左 官 業 佐 藤	//
5	山 脇 光 弘	(株) 山 脇 組	//
6	中 嶋 正 雄	中 島 左 官 (株)	//
7	津 田 誠 一	(有) 津田左官工業所	//
8	片 田 儀 斎	片田儀斎営業所	//
9	安 達 保 信	(有) 安 達 左 官 店	//
10	堀 喜 晴	堀 左 官 店	//
11	小 林 錦四郎	小 林 左 官 店	//
12	浅 原 雄 三	し っ く い 浅 原	//
13	本 田 昇	本 田 左 官 工 業 所	//
14	石 田 貞 男	石 田 左 官 工 業	//
15	松 本 勉	(有) 左 官 松 本 組	//
16	十 倉 康 光	(有) 安 達 左 官 店	平成18年7月5日
17	長谷川 喜 三	(株) 奥 井 建 設	//
18	宮 川 清	(株) 奥 井 建 設	//
19	高 木 明	中 島 左 官 (株)	//
20	天 池 三 郎	中 島 左 官 (株)	//
21	長 縄 厚	中 島 左 官 (株)	//
22	杉 坂 健	中 島 左 官 (株)	//
23	津 田 弘 道	(有) 津田左官工業所	//
24	福 島 政 和	(有) 津田左官工業所	//
25	山 脇 一 夫	(株) 山 脇 組	令和元年5月12日
26	細 江 洋 平	中 島 左 官 (株)	//
27	中 嶋 英 貴	中 島 左 官 (株)	//
28	荒 木 孝 行	(株) あじま左官工芸	//
29	笹 原 剛	(株) あじま左官工芸	//
30	志 村 まい子	しゃかん かとう屋	//
31	山 本 登	ヤ マ モ ト 左 官	//
32	柴 田 正 樹	(株) 山 脇 組	//
33	石 田 均	石 田 左 官 工 業	//

## 選定保存技術左官(日本壁) 伝承者養成技術研修会 受講修了者名簿

	番号	氏 名	所属事業所(交付時)	生 年	修了証交付日
第1期生	1	浅原 一郎	しっくい浅原	昭和48年	平成17年4月1日
	2	安達 明宏	(有)安達左官店	昭和39年	//
	3	北村 久彦	(有)津田左官工業所	昭和50年	//
	5	柴田 正樹	(株)山 脇 組	昭和50年	//
	6	中嶋 英貴	中 島 左 官(株)	昭和52年	//
	7	矢野 孝太郎	しっくい浅原	昭和48年	//
	第2期生	8	勝木 巖	左官業 佐藤	昭和37年
9		清水 達朗	(有)田代千治店	昭和49年	//
10		廣田 直人	しっくい浅原	昭和44年	//
11		山脇 一夫	(株)山 脇 組	昭和55年	//
12		伊佐次 卓也	中 島 左 官(株)	昭和59年	//
13		高屋 忠光	(有)田代千治店	昭和48年	//
14		香取 寛隆	(有)安達左官店	昭和51年	//
第3期生	15	本田 俊之	本田左官工業所	昭和56年	平成21年4月1日
	16	石田 均	石田左官工業	昭和33年	//
	17	大森 祐郎	(有)田代千治店	昭和51年	//
	18	塩畑 明浩	(株)山 脇 組	昭和62年	//
	19	田中 昭義	左官業 佐藤	昭和48年	//
第4期生	20	水野 秀紀	中 島 左 官(株)	昭和52年	平成22年4月1日
	21	吉川 司	(株)山 脇 組	昭和48年	//
	22	大石 晃司	左官業 佐藤	昭和53年	//
	23	及川 敏	(株)あじま左官工芸	昭和39年	//
	24	小迫 傳	小 迫 左 官	昭和22年	//
	25	山本 登	小 迫 左 官	昭和35年	//
	26	志村 まい子	中 島 左 官(株)	昭和58年	//
第5期生	27	荒木 孝行	(株)あじま左官工芸	昭和48年	平成25年4月1日
	28	永井 宏和	(株)山 脇 組	昭和55年	//
	29	淵田 桂太	中 島 左 官(株)	昭和52年	//
	30	本田 英雅	佐藤左官工業所	昭和45年	//
	31	御園 拓馬	本田左官工業所	昭和60年	//

	番号	氏 名	所属事業所(交付時)	生 年	修了証交付日
第6期生	32	足 立 純	(株)足 立 組	昭和47年	平成26年4月1日
	33	笹 原 剛	(株)あじま左官工芸	昭和54年	//
	34	中 田 一 真	(株)イ ス ル ギ	昭和59年	//
	35	野 村 智 広	佐藤左官工業所	昭和57年	//
	36	細 江 洋 平	中 島 左 官(株)	昭和57年	//
第7期生	37	今 成 辰 夫	吉 村 興 業(株)	昭和51年	平成29年4月1日
	38	太 田 勝 之	太 田 左 官	昭和47年	//
	39	大 田 雄 介	(株)山 脇 組	昭和63年	//
	40	加 藤 正 幸	しゃかん かとう屋	昭和47年	//
	41	木 谷 直 充	(株)しっくい浅原	昭和62年	//
	42	永 井 貴 晃	(株)イ ス ル ギ	昭和61年	//
	43	原 慶 介	原 左 官 工 藝	昭和53年	//
第8期生	44	森 田 真 伍	中 島 左 官(株)	昭和61年	//
	45	上 床 匡 史	中 島 左 官(株)	平成元年	平成30年4月1日
	46	小 島 徹 也	(有)津田左官工業所	昭和63年	//
	47	竹 内 一 司	(株)山 脇 組	昭和44年	//
	48	深 井 浩 昭	吉 村 興 業(株)	昭和44年	//
	49	藤 本 健一郎	原 左 官 工 藝	昭和42年	//
第9期生	50	丸 橋 優 樹	(株)しっくい浅原	昭和58年	//
	51	石 黒 優	中 島 左 官(株)	平成 2年	令和5年4月1日
	52	大 橋 光	中 島 左 官(株)	昭和58年	//
	53	塚 田 哲 平	片田儀齋営業所	昭和58年	//
	54	根 本 英 治	吉 村 興 業(株)	昭和46年	//
	55	畑 中 智 也	木 津 工 業 所	平成 5年	//
	56	原 田 正 志	(株)原田左官工業所	昭和54年	//
第10期生	57	光 増 健 二	光 増 左 官	昭和59年	//
	58	塩 谷 洋 晴	大 和 左 官	昭和50年	令和6年4月1日
	56	荒 木 英 丸	(株)原田左官工業所	昭和53年	//
	57	長 坂 晃 輔	(有)安達左官店	昭和60年	//
	58	横井川 武志	田中昭義左官(株)	昭和51年	//
	59	原 翔 一	原 左 官 工 藝	昭和59年	//

## 選定保存技術左官(日本壁) 伝承者養成技術研修会 中級研修受講修了者名簿

	番号	氏 名	所属事業所(交付時)	生 年	修了証交付日
第1期生	1	浅原 一郎	(株)しっくい浅原	昭和48年	平成25年4月1日
	2	北村 久彦	(有)津田左官工業所	昭和50年	//
	3	杉坂 健	中島左官(株)	昭和38年	//
	4	田中 昭義	(有)京壁 井筒屋佐藤	昭和51年	//
	5	矢野 孝太郎	(株)しっくい浅原	昭和48年	//
第2期生	6	安達 明宏	(有)安達左官店	昭和39年	平成27年4月1日
	7	榎本 英樹	木津工業所	昭和45年	//
	8	及川 敏	(株)あじま左官工芸	昭和39年	//
	9	大石 晃司	(有)京壁 井筒屋佐藤	昭和53年	//
	10	小林 常司	左 司	昭和43年	//
	11	佐伯 愛子	木津工業所	昭和52年	//
	12	志村 まい子	しゃかん かとう屋	昭和58年	//
第3期生	13	長谷 清高	(株)あじま左官工芸	昭和47年	//
	14	笹原 剛	(株)あじま左官工芸	昭和54年	平成29年4月1日
	15	清水 達朗	(有)田代千治店	昭和49年	//
	16	今成 辰夫	吉村興業(株)	昭和51年	令和元年5月12日
	17	太田 勝之	太田左官	昭和47年	//
第4期生	18	木谷 直充	(株)しっくい浅原	昭和62年	//
	19	原 慶介	原左官工芸	昭和53年	//
	20	山脇 一夫	(株)山脇組	昭和55年	令和6年4月1日
	21	中嶋 英貴	中島左官(株)	昭和52年	//
	22	津田 弘道	(有)津田左官工業所	昭和39年	//
	23	加藤 祐一	加藤左官店	昭和46年	//
	24	柴田 正樹	(株)山脇組	昭和50年	//
	25	原田 正志	(株)原田左官工業所	昭和54年	//
	26	大森 祐郎	(有)田代千治店	昭和51年	//
	27	丸橋 優樹	(株)しっくい浅原	昭和58年	//
	28	森田 真伍	中島左官(株)	昭和61年	//
	29	松本 祐二	(株)松本工業	昭和42年	//

## 会 員 名 簿

		事業所名	代表者名	郵便番号	住 所
正 会 員	1	(株) 山 脇 組	山 脇 一 夫	〒670-0974	兵庫県姫路市飯田1-24
	2	中 島 左 官 (株)	中 嶋 正 雄	〒483-8104	愛知県江南市力長町大当寺128
	3	(有)津田左官工業所	津 田 弘 道	〒520-0105	滋賀県大津市下阪本1丁目20-22
	4	小 林 左 官 店	小 林 錦 四 郎	〒643-0004	和歌山県有田郡 湯浅町湯浅2132-17
	5	(有)田代千治店	田 代 益 市	〒600-8242	京都府京都市下京区猪熊通り 塩小路下る上夷町165番地
	6	(有)京壁 井筒屋佐藤	佐 藤 ひろゆき	〒602-8362	京都府京都市上京区 御前通下立売上る仲之町296
	7	(有)安達左官店	安 達 保 信	〒600-8184	京都府京都市下京区花屋町通り 間の町西入る天神町411-2
	8	片田儀斎営業所	片 田 儀 斎	〒602-0915	京都府京都市上京区中立売通 小川西入ル3丁目440-5
	9	(株)しっくい浅原	浅 原 雄 三	〒607-8193	京都府京都市山科区大宅沢町185
	10	本 田 左 官 工 業	本 田 俊 之	〒572-0051	大阪府寝屋川市高柳2丁目43-13
	11	石 田 左 官 工 業	石 田 均	〒761-0902	香川県さぬき市大川町富田中2147
	12	(有)左官松本組	松 本 勉	〒784-0052	高知県安芸市井ノ口乙1202-3
	13	(株)あじま左官工芸	阿 嶋 一 浩	〒125-0062	東京都葛飾区青戸8丁目19-11
	14	左 司	小 林 常 司	〒604-8145	京都府京都市中京区東洞院 蛸薬師下る元竹田町639-11
	15	しゃかん かとう屋	加 藤 正 幸	〒518-0024	三重県伊賀市東高倉2380-11
準 会 員	16	(株) イ ス ル ギ	石 動 信 明	〒921-8027	石川県金沢市神田1丁目31番1号
	17	木 津 工 業 所	木 津 恵 雄	〒605-0081	京都府京都市東山区古門前通り 大和大路東入る二丁目三吉町344
	18	太 田 左 官	太 田 勝 之	〒769-1502	香川県三豊市豊中町笠田笠岡3156-3
	19	原 左 官 工 藝	原 健 一	〒640-8286	和歌山県和歌山市湊御殿2丁目6
	20	吉 村 興 業 (株)	吉 村 誠	〒165-0031	東京都中野区 上鷲宮4丁目10番6号

		事業所名	代表者名	郵便番号	住 所
準 会 員	21	(株)原田左官工業所	原 田 正 志	〒990-0892	山形県山形市大字中野423-1
	22	ヤマモト左官	山 本 登	〒586-0027	大阪府河内長野市 千代田台町17-21
	23	大 和 左 官	塩 谷 洋 晴	〒475-0841	愛知県半田市大和町1-57
	24	田中昭義左官(株)	田 中 昭 義	〒616-0023	京都府京都市西京区 嵐山宮ノ前町35-4
	25	(株)富士工舎	荒 木 富士男	〒811-1245	福岡県那珂川市大字別所1103-1
	26	宮 奥 左 官 工 業	宮 奥 淳 司	〒633-2155	奈良県宇陀市大字陀黒木1028
	27	壁左匠しらいし(株)	白 石 博 一	〒306-0023	茨城県古河市本町4丁目14-29
	28	(株)小倉左官店	小 倉 道 生	〒509-6251	岐阜県瑞浪市日吉町7571番地8
	29	光 増 左 官	光 増 健 二	〒736-0088	広島県広島市安芸区畑賀3丁目22-10
	30	大 橋 左 官	大 橋 和 広	〒960-0801	福島県伊達市霊山町掛田字日向 前137-8
賛 助 会 員	31	宮 谷 製 作 所	宮 谷 邦 夫	〒673-0441	兵庫県三木市別所町朝日ヶ丘 35番地の69
	32	村 檉 石 灰 工 業 (株)	村 檉 太 郎	〒327-0509	栃木県佐野市宮下町1番10号
	33	(株)北正商店	北 野 一 成	〒599-8271	大阪府堺市中央区深井北町104-2
	34	尾 崎 色 土 製 造 所	尾 崎 良 弘	〒612-0862	京都府京都市伏見区 深草大亀谷西久宝寺町7
	35	(株)丸京石灰	鳥 越 宣 宏	〒879-2474	大分県津久見市徳浦2052-5
	36	田 中 石 灰 工 業 (株)	田 中 克 也	〒783-0084	高知県南国市稲生3185番地

〈事務局〉〒483-8104 愛知県江南市力長町大当寺128 TEL:0587-59-8000 FAX:0587-54-9090  
E-Mail:kabehozonkai@outlook.jp HP:http://kabehozonkai.sakura.ne.jp